成果の説明書

(氏名) 藤井孝宗	(学部) 経済

1　重要事項

本年度は、昨年度から引き続き入試担当学部長補佐としての学部の入試業務を担当した。入試出題や入試関連業務の業務担当者の決定など、様々な事務業務を担当した。また、本年度から高校の新学習指導要領（新教育課程）に対応した入試制度に変更する必要があるため、そのための入試問題の内容形式に関する検討も引き続き行った。また、東京の私立大学などが導入した新しい入試制度、入試日程などに対抗し、本学の受験生数および入学者のレベルの維持のため、入試制度改革を行う必要があると認識しており、その検討に取りかかっている。改革の方向性についてはつまびらかに出来ないが、問題意識の共有及び制度変更の方向性に関する議論は進んでいると考えている。入試関連業務としては、近年高校側からの要望も多い高大連携事業についても、現在高崎経済大学附属高校とを行っている事業を担当する教員にのみ負担がかかっていること、担当教員がいなくなった場合事業が維持できなくなるリスクなどを鑑み、より学部として組織的かつ内容も拡大・深化することを目指し検討を始めた。入試戦略についても学内データを活用した分析を開始しており、データ分析を元にした入試改革を今後実施していきたい。

同時に、教務関連の業務については、カリキュラム検討委員会のメンバーとして部分的に関わった。カリキュラムマップや学生の履修モデルの作成などにかかわり、原稿のカリキュラムの問題点をあぶり出す作業を行った。

教育面では、円安が直撃しておりかなりコロナ以前とくらべると大幅にコストが増加してしまった結果、大学および国際学科全体として語学研修、海外フィールドワークやインターンシップ、ボランティアなどに参加する学生が以前と比べ少数にとどまってしまっており、なんとか広報や学生へのアピールを続けて海外研修への参加者を回復させていきたい。私のゼミでも本年度の海外フィールドワークとして 2 月にドイツ・ベルリンへの学生引率を行った。コロナ禍が続いていたため高校などでの海外経験ができなかったがほとんどで、実質的に今回が初の海外経験、という学生が多く引率にはかなり気を遣うことになり、バゲッジ・ロストや体調悪化などトラブルに見舞われる学生も少なからずでてしまったものの、様々な活動を通して多くの学習、経験を行うことが出来た。全体としては学生も満足して楽しんでくれたようであり、有意義なものになったのではないかと思っている。

研究に関しては、残念ながら本年度は学務に時間を費やさざるを得なくなったため、ほぼ何の成果も上げられていないと言わざるを得ず、この点は大きな反省点である。来年度以降はなんとか状況を改善して研究に関しても成果を戻していきたいところではあるが、次年度は学部長を拝命することになっており、研究についてはなかなか状況を変えるのは難しそうである。

2　その他の事項

担当している科目のうち、「市場と経済」という名前の経済学入門科目において、e-Learning 教材を以前より導入しており、IT 技術を使ったアクティブ・ラーニングへの取り組みをおこなっている。来年度より少人数の再履修科目（1 年生で単位を取れなかった学生用の再履修科目）で試験的に完全オンデマンド講義に移行する予定であり、その準備を積極的に行った。本科目は最終的には再履修科目のみならず必修科目である市場と経済 4 クラスすべてをオンデマンド講義に移行する予定であり、今後も DX への取り組みを今後も積極的に行っていきたい。

３　次年度以降の計画・抱負

次年度は経済学部の学部長を拝命することが決まっており、学部長補佐時代に手をつけた入試課題の改革などを本格的に検討していくとともに、教務関連の諸課題、カリキュラム編成の再検討や改革などにも力を入れていきたい。入試関連に関しては、既述の他大学での入試制度改革や新学部設置などの環境変化に対応するための入試制度改革を具体的なものにするために注力していきたい。教務関連については、原稿のカリキュラムは改訂されてからすでに 10 年程度経過しており、効果観察とともに一定の見直し、改訂も必要になると思われる。本学ではデータサイエンスに注力し、センター開設を行うなどの施策を打ち出しているので、学部カリキュラムもそれに対応した改訂など考えていく必要があると認識している。教育に関しては昨年度より再開したゼミにおける海外研修活動をより積極的に進めていきたいと考えている。また、コロナ禍以前に行っていた他大学のゼミとの研究発表会も再開しており、こちらについても引き続き積極的に取り組み、学生が有益な研究、発表の経験を積めるよう助力していきたい。研究に関しては、学部長業務があるためどれだけ時間を割けるか不分明であるが、なんとか頑張りたい。